

## 第60回高等学校卒業式 校長式辞要旨

春の訪れが待ち遠しいなか、本日は東洋大学附属牛久高等学校第60回卒業式を挙げるにあたり、多数のご来賓、保護者の皆様のご臨席をいただきまして、盛大にかつ厳粛に挙げるできますことは、本校にとりまして喜びとすることとごさいます。心より厚く御礼申し上げます。

また、保護者の皆様には、この6年間あるいは3年間、お子様とともに多くの苦難を乗り越えてこられたことと存じます。その御苦勞を思うとき、この卒業の日を迎える慶びは、如何ばかりかと、心よりお祝い申し上げます。

さて、ただいま卒業証書を授与いたしました581名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございませす。皆さんの晴れの門出を心より祝福します。

皆さん今の顔を見ていると、本校での勉強そして学校行事や部活動を通して見違えるような成長を遂げられたことを実感いたします。

これからの社会の中核を担うべき皆さんにとって、現在の社会情勢はどうでしょうか。国内では、2月の衆議院総選挙で自由民主党の歴史的圧勝で、国民から高市政権の信任を得たということになります。ミラノ・コルティナ冬季オリンピック大会では、日本選手は活躍し、前回の北京大会のメダル獲得数を上回り、冬季オリンピック史上最多を更新しました。

近年の温暖化に伴う様々な気候変動への対応、SDGs、地球環境への配慮に加えて、国際紛争への対応等々、これからの国際社会、地球全体を考えていかなければならない課題は山積しています。特に地球温暖化の進行に伴い、冬季オリンピックを開催できる環境は減少して将来的には、開催可能地は46都市まで減少するとの予測があり、開催そのものが危ういと極めて厳しい予測もあります。これらの課題解決のためには、自国の利益や都合を優先することではなく、また、感情的な対立でもなく、冷静な態度で互いの立場を尊重して歩み寄ること、協調が必要です。

現在の国際情勢を見れば、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻は、未だに終わりが見えません。また、イスラエルとパレスチナの紛争は、停戦協定は結ばれましたが予断は許されませぬ。欧米の主要国等においても自分の国の利益や、自国民のこののみを最優先する風潮が強くなりつつあります。

今から約百年前、第一次世界大戦の反省を踏まえて国際連盟が結成されたり、63か国が批准した不戦条約、国際紛争の解決のための「戦争はしない」という国際的な取り決めをしました。しかし、第二次世界大戦がおこり、この不戦条約の考え方を踏まえて、戦後の国際連合発足に当たって「いかなる紛争でもその継続が国際の平和及び安全の維持を危くする虞（おそれ）のあるものについては、その当事者は、まず第一に、交渉、審査、仲介、調停、仲裁裁判、司法的解決、地域的機関又は地域的取極の利用その他当事者が選ぶ平和的手段による解決を求めなければならない」という憲章を策定しました。戦後80年を経過してこのことの教訓を忘れてしまったような国々があります。

グローバル化が進化した現代に生きる私たち「地球市民」が求めるものは、帝国主義や自国優先の孤立主義ではなく、多文化共生、国際協調であり、戦争のない平和な世界であるはずでせす。

この国連憲章の内容を踏まえて日本国憲法前文の末尾には、「われらは、いづれの国家も、自国のこののみに専念して他国を無視してはならないのであつて、政治道徳の法則は、普遍的なものであり、この法則に従ふことは、自国の主権を維持し、他国と対等関係に立たうとする各国の責務であると信ずる。日本国民は、国家の名誉にかけ、全力をあげてこの崇高な理想と目的を達成することを誓ふ。」と結ばれています。この理想の実現のために、本校での学びや、体験的な活動の中から、異なる文化を尊重しつつ人類共通の目標を求めてほしいと願います。

中国春秋戦国時代の思想家孔子の言葉をまとめた『論語』のなかに、  
徳は孤ならず必ず隣あり

という言葉があります。この意味は人徳のある者は孤立することがなく、その人の行動や考えを理解し、親しい仲間、助ける人が必ずできるという意味ですが、自分自身が誠実に正しい行動をとって  
いれば、自分一人ではなく、必ずその理解者がいて、助けてくれる仲間がいるということです。

さて、「十八歳成人」の制度も定着してきた感があります。であれば3月生まれの人を除いて、すでに成人、一個の大人となっている人たちがこの会場には大半を占めているはずですが、まだまだ充分ではありません。高校を卒業し、多くの人が大学など上級の学校に進み、卒業後ようやく社会人となって、一人前となることでしょう。

社会に出て、責任ある大人、社会人としての自覚をもってもらうのに、改めて『論語』の一節を紹介したいと思います。

子曰く

君子に九思有り。視るには明を思い、聴くには聡を思い、色には温を思い、貌（かたち）には恭を思い、言には忠を思い、事には敬を思い、疑わしきには問を思い、忿（いかり）には難を思い、得るを見ては義を思う。

君子に九思有り。君子には九つの心得が必要である。

視るには明を思い、ものを見る時は、はっきり見ようと思うこと

聴くには聡を思い、人のことばは、よく聞き分けようと思うこと

色には温を思い、自分の表情は、おだやかであろうと思うこと

貌（かたち）には恭を思い、自分の態度は、控えめにしようと思うこと

言には忠を思い、発言にさいしては、誠実であろうと思うこと

事には敬を思い、仕事をするさいは、慎重であろうと思うこと

疑わしきには問いを思い、疑問にぶつかったら、探究しようと思うこと

忿（いかり）には難を思い、怒りを爆発させた後の事態を思うこと

得るを見ては義を思う。利益を前にしたら、筋が通っているかと思うこと

物事を観察するときは事の本質を見分ける、人の言葉をよく聞く、自分の表情は穏やかにする、自分の態度は控えめにする、発言は誠実な言葉で、行動は慎重に、疑問に思うことはきちんと調べる、怒りを爆発させたらその後どうなるかを想像する、利益を前にしたら道義に反していないか確認する。これは大人として、一個の社会人として世の中を生きていく上で必要なことと思います。九つのうち一つでも二つでも心掛けてほしい事柄です。

これからの社会を生き、この社会を支えていくのは、皆さん卒業生の一人一人の力にかかっています。これからの皆さんの活躍に期待します。

改めて保護者の皆様、お子様のご卒業まことにおめでとうございませう。自立を始めた我が子の成長に、一抹の寂しさを覚えつつも、思わず目を細めていらっしやるのではないのでしょうか。

心からお喜び申し上げますとともに、六年間、三年間にわたり本校の教育方針をご理解いただき、ご協力いただきましたことを、本校教職員を代表して御礼申し上げます。

結びに、本日はご多用にもかかわらず、ご臨席を賜りましたご来賓の皆様方に心より感謝と御礼を申し上げますとともに、今後とも本校の教育に変わらぬご支援を賜りますことをお願い申し上げ、式辞といたします。

2026（令和8）年3月2日

東洋大学附属牛久高等学校長 金澤利明